

僧見聞録

『手を動かさないと
わからないこと』

県南支部 長徳寺住職
根本 英法



平成十二年、大学を卒業し、一般の会社へ就職しました。理系の大学で学んでいたこともあり、就職先は、都内でコンピュータを取り扱う会社にご縁をいただきました。平成十二年といえ、ミレニアムといわれた西暦二〇〇〇年。あらゆる分野で、コンピュータが計算の誤りで誤作動をおこし、社会インフラに甚大な悪影響が出るのではないかと危惧された年です。入社前の研修のときには、「この年末年始は会社に泊まり込みだな」と、つぶやいていた先輩社員のことを思い出します。

コンピュータは、ハードウェアという形のある機械装置と、ソフトウェアという装置を制御する形のないプログラムの二つがそろって、はじめて役に立つ存在となります。それが「ハードウェアが壊れた」「ソフトウェアが急に反応しない」など、いつもは快調に動作していたものが、何かの組み合わせや、タイミングで思いもよらない不具合を引き起こします。顧客先からそんな連絡をいただいた時には、現地へ赴き、対応策を頭で考えます。しかし、実際のところ、その策が正解か間違いかは、わかりません。いろいろと試行錯誤してみても、はじめて対応策への糸口が見えてくると

というのが実際のところでした。

数年後、退職し、最乗寺専門僧堂へ安居させていただきました。送行の後には、師寮寺へ戻る予定でおりましたが、ご縁あって、再度同じ会社へ就職することとなり、結果として、福島へ戻るのは、平成二十八年となつてしまいました。それから、お声がけいただき、青年会へ入り、翌年、単年事業であった「法式委員会」にも加えていただき、データ入力などで、お手伝いをさせていただきました。

会社員のときは、筆記具を持つのはメモするときぐらいで、なにか記録するといえ、キーボードを用いてコンピュータ上に保存することが常でした。しかし、お寺では、そういうわけもいかず、当たり前ですが、書き物をするときは筆をもちます。これが、不慣れないせいもあり、なかなか難しく、今でも四苦八苦しております。そんな中、何とか手書きの苦手意識を払拭するために、お気に入りのペンを用意し、意識的に手書きで文字を書くようにしている次第です。

コンピュータ上の情報は、0か1かで表現され、洗練され整ったものですが、それは欠損に弱い構造をしている弱点があります。一方、実世界でみるアナログ情報は、連続したもので、ノイズのような直接必要としない情報をも含んでしまっていますが、その分、あらゆる情報を豊かに記録し、欠損にも強い構造をもっています。何事にも得手不得手はあるかと思えます。私も引き続き、新しい技術を取り入れながらも過度に偏らず、ハードウェアをこの身に、ソフトウェアを心にかえて、これからも紆余曲折し、試行錯誤しながら、精進してまいります。



編集後記

執行部事務局の皆様、各支部長の皆様、各支部精進委員の皆様、快く原稿執筆して頂きました皆様、坂本印刷所の皆様の御協力のおかげで、無事に一一三号を発行することができました。本当にありがとうございます。

早いもので、県中支部が「精進」の担当となつて、無事に二回目を発行出来たことに安堵しているところです。来年度は曹福青六十周年事業もあり、精進委員として微力ながら、皆様の活動を伝えていければと思います。

事務局長 秋山 真宏 九拝
第二回精進は慰霊行脚や十三回忌法要を中心に編集に取り組みしました。私自身も慰霊行脚に参加し、改めて映像や地図で振り返ると、大規模な取り組みであったことを実感し、微力ながら参加できたことを誇りに思いました。

曹福青六十周年という節目に、精進委員として携わる事となり、このご縁に感謝申し上げます。この度発行の精進一一三号に引き続き、来年度も周年事業等、様々な活動を伝え、残していけたらと思います。

会計 高桑 清二 九拝



精進

第113号

令和5年3月31日

【発行所】

〒965-0822

福島県会津若松市花見ヶ丘3丁目3-8
恵倫寺内

曹洞宗福島県青年会

TEL.0242-26-2882

【発行責任者】佐藤 泰典

【編集責任者】安倍 元宏



曹福青公式 facebook はじめました



をお願いします



精進

曹洞宗福島県青年会会報

第113号

23.3.31

目次	1
会長挨拶	2
東日本大震災十三回忌奉賛事業 福島浜街道「絆の道」慰霊行脚	3
絆の道(第一回～第十三回)	4
相双地区東日本大震災慰霊碑供養 東日本大震災十三回忌慰霊法要	9
会津支部自由研修会等	12
SNS等紹介・ご協賛芳名録・退会者一覧	13
支部だより	14
僧見聞録・編集後記	16





会長挨拶

会長 佐藤泰典

「光陰矢の如し」 早いもので会長の任を頂いて一年が過ぎようとしております。己の未熟さを痛感しながらも、会務、事業をここまで大過なく勤めることが出来ました。

昨年九月より実施して参りました「絆の道」慰霊行脚は、三月十日に最終回を迎えました。全十三回、総行程一二〇kmとなり、最後の行脚には約四十名の会員が参加しました。翌十一日には現地相馬市にて震災十三回忌慰霊法要を厳修しました。この半年間、実際に福島県沿岸部

を歩き、僅かながら被災地の今を直接感じることができました。また各支部で行脚をリレーしていくことで、以前よりも会員同士の見えない絆、繋がりを再認識できました。その過程を経た結果が、十一日の十三回忌法要での半数近くの多くの会員の随喜となつて現れました。本年は、当会の創立六十周年を迎えます。六月には、会員有志にてインド北部のラダック地方へ記念植樹をして参ります。当地はチベット仏教の盛んな地域でもあります。会としての初

めての大掛かりな海外での慈善事業となりますが、現地での経験、学びを会員にフィードバックし、会員それぞれが社会貢献の実感を得ることが出来る事業としていきます。十月十五日には、会津地方の日新館を貸し切りにして、「ふくしま禅フェス楽しい寺子屋」と題し、フェスを開催します。会員それぞれ、支部それぞれが個性を出し合いながら、特色ある企画、ブースを展開し、普段私たちがあまり接点の無い若年層、子育て層が仏教、禅に親しむことができるイベントにします。このイベントの経験を通して、今後会員各自が自信をもつてそれぞれのお寺で仏教を発信、布教していく契機となればと願います。さらに今年度は「禅の暦」カレンダーのサイズを従来版に加えて縮小版の頒布も予定しております。より多くの方のニーズに応えら

れるよう、実現に向けて委員会の中で制作を進めております。会員それぞれがお忙しい中の青年会活動であると思います。依然残るコロナ禍でありながら、ここまで事業に協力、参加いただいた執行部、周年委員の皆さま、支部長をはじめとする各会員の皆さまには、本当に感謝の言葉しかありません。また、常にご理解をいただき、お見守り、励ましを下さり、時には一緒に参加いただいた青年会OB諸師の方々にも、心より御礼申し上げます。

伝光録の一節に、「聖を去ること遠く、道業未だ成ぜず。身命保ち難し、何ぞ後日を期せん」とあります。今、この身だからこそ出来ることを、会員の仲間と作り上げ、分かち合いながら、残りの任期一年、精一杯勤めて参ります。

曹洞宗福島県青年会 六十周年事業委員会 東日本大震災十三回忌奉賛事業 福島浜街道「絆の道」慰霊行脚

平成二十三年三月十一日を私達は忘れず 祈り 寄り添い
令和四年九月五日いわき市より
令和五年三月十日新地町まで
雨の日も風の日も 願いを一つに
想いをつなぐ 青年僧の道



第一回 九月五日（月）



天 氣／曇り時々晴れ
 氣 温／二十五度
 勿来海岸／鯨川河川敷公園
 九 十 口
 歩 数／一万二百五十歩
 集合場所／浄円寺様
 担当支部／会津（八名）
 支援支部／いわき（六名）

あれから十二年。東日本大震災十三回忌を迎えるにあたり、私たち曹洞宗福島県青年会は、福島島の海岸線を歩く慰霊行脚「絆の道」を行うことにしました。月に二、三回のペースで、百五十キロを分割して行脚し、来年三月新地町着を目指します。

打ち寄せる波の音を聞きながら海岸を歩き、海に向かってお経を唱えました。「せめて、この十二年間に思いを寄せたい」そんな思いで、一步一步砂浜を踏み出した一行でした。



第二回 九月十五日（木）



天 氣／曇り時々晴れ
 氣 温／二十二度
 鯉川河川敷公園
 〓 岩間海岸駐車場 四半口
 歩 数／六千二十三歩
 集合場所／浄円寺様
 担当支部／県南（七名）
 支援支部／いわき（四名）

海釣りやサーフィンを楽しむ方も多く、穏やかな海の日常を感じながら歩を進め、十二年前に思いを馳せる貴重な時間となりました。

震災後にできたというサイクリングロードもずつと前からあったかのように自然な風景。そこそが十二年の時間の経過を物語っているようです。



第三回 九月二十七日（火）



天 氣／晴れ
氣 温／二十二度
三崎公園／江名港
六キロ三百メートル
歩 数／一万六十七歩
集合場所／円福寺様
担当支部／県中（九名）
支援支部／いわき（五名）

三回目にして初めて青空。そして強い風に綱代笠をあおられながらの歩みでした。

震災後に建てられたという高い堤防。浜風と波しぶき。船が停泊する港。また新たな景色が私たちを迎えてくれました。ずっと前から海を見守り、海の恵みと厳しさを知る龍神さまの前での読経は、ただただ感慨無量の時間でした。



第四回 十月三日（月）



天 氣／曇り
氣 温／二十二度
江名港／塩屋埭灯台
四千口五百メートル
歩 数／六千九百十三歩
集合場所／医王寺様
担当支部／県北（十二名）
支援支部／いわき（四名）

四回目の今日は弱風でしたが、高い波が幾重にも幾重にも重なつて押し寄せてきました。歩きにくいはずの砂浜も、塩屋岬の灯台が目印となり歩が軽く感じられます。「灯」の大切さを感じる有難い時間となりました。

今回も天候に恵まれた中、灯台を指しながら浜辺を歩きました。高い波を見ながらの読経は改めて有難いものでした。



第五回 十月十二日(水)・十三日(木)



天 氣／曇り
 塩屋崎灯台／新舞子海岸
 七キロ二百メートル
 新舞子海岸／海嶽寺十キロ
 歩 数／一万六千五百九十九歩
 三万四千三百四十三歩
 集合場所／新舞子ハイッ
 担 当／周年委員会
 (十三名・十一名)
 支援支部／いわき(六名・六名)

初めて六支部合
同の回となり、二
日間県内各地から
集まつた仲間が心
を一つにし、強い
風に向かつて列を
組みました。海に
向かつて読経した
際、波が我々の足
元まで押し寄せ、
静かに引いていき
ました。

激しい波や強い
風を受けながら砂
浜を歩いていく際
には、同行同修の
仲間の心強さを感
じました。



第六回 十一月十日（木）



天 氣／快晴
氣 温／十九度
海嶽寺／天神岬スポーツ公園
十三キロ七百メートル
歩 数／二万九千五百三十五歩
集合場所／海嶽寺様
担当支部／会津（十一名）
支援支部／いわき（五名）

ついにいわき市から広野町、楢葉町へ。粗い砂浜で足が取られ、なかなか前に進みません。岩場に荒波がぶつかっては水しぶきが飛んできます。

途中の慰霊碑には「大地震が起きたら大津波が来る。直ぐに逃げろ、高台へ。一度逃げたら絶対戻るな。」との赤い文字が。弁天岬の迫力に圧倒され、夕日の中大きな堤防を天神岬目指して歩きました。



第七回 十一月十五日（火）



天 氣／雨
 氣 温／十一度
 天神岬スポーツ公園／龍臺寺
 歩 数／一万五千五百八十六歩
 集合場所／龍臺寺様
 担 当／執行部（十名）
 支援支部／相双（四名）

雨の中ではありましたが、全国曹洞宗青年会山田俊哉会長に導師をお勤めいただき、全国各地より全曹青役員五名の方々と共に、合羽を着て力強く歩きしました。榎葉町の高い堤防から海を臨み、福島第二原子力発電所のすぐ側を通る。慰霊碑のある真言宗龍藏寺様では、ご住職とお檀家さまに温かいもてなしをいただき、当時の話を聞かせて頂きました。



福島第一原子力発電所の近くは歩くことができず、二年前に新設された原子力災害伝承館からのスタート。帰還困難区域に近い双葉町、浪江町、南相馬市にわたる行程でした。ほとんど民家が無く、震災から時間が止まっているような所も散見されました。



年内最後の行脚は、南相馬市の慰霊碑を読経して巡る寒中の行脚となりました。堤防では厳しい北風に迎えられ、最後は雪も散らつく中、一同は震災当時の寒さに想いを馳せながら歩きました。



第八回 十一月二十一日（月）



天 氣／快晴
 氣 温／十四度
 原子力災害伝承館
 井田川地区慰霊碑
 歩 数／一万六千二百三十三歩
 集合場所／原子力災害伝承館
 担 当／支部／県南（六名）
 支援支部／相双（四名）

公民館を休憩所として開放してくださり、寒い中慰霊碑で待つていて下さった地域の方々からは、「是非今後も続けていいただきたい」という声もあり、とても励まされました。それが私たちのさらに歩を進める活力となります。



第九回 十二月十四日（水）



天 氣／曇り
 氣 温／七度
 村上地区慰霊碑
 歩 数／一万三千四百四十五歩
 集合場所／千相院様
 担 当／支部／県中（十名）
 支援支部／相双（六名）

相馬市に入り、沿道で手を合わせてくださる方も多くおられました。蒼龍寺様の慰霊碑では寒い中たくさんの方々が参列され、役員の方のお宅で温かいもてなしをいただきました。松川浦の海沿いを歩く予定でしたが、昨年三月の地震の補修作業中でした。OBの天野淳英師、瀧澤勝俊師（元会長）、秋田県曹青より菅原芳徳師、宮城県曹青より千田祥幹師、牧野隆信師が随喜下さり、お力を頂きました。



第十回 一月二十三日（月）



天 氣／曇り時々雪
 氣 温／三度
 下浜佐寄り添い地藏
 歩 数／六千六百十二歩
 集合場所／千相院様
 担 当／師範会有志十五名
 支援支部／相双（五名）

十回目には御詠歌による行脚となりました。浜通りには珍しく雪が舞う中、御詠歌を唱えながらの行脚はこれまでとはまた違う趣きでした。鈴を持つ手がかじかんでも、寒さで声が震えても、思いを一つにしてお唱えしながら歩を進めました。各慰霊碑では、地元の方々に参列いただき、青年会OBでもある師範会の先生方と、詠範さんがお唱えで随喜して頂き、外の寒さと対照的に心が温まりました。詠讚歌の同行同修の想いを新たにさせていただきました。



冬の合間の陽気の中での行脚でした。各慰霊碑では地区の方々も参列され、区長さまからあたたかい激励も頂戴しました。鹿島の一本松跡地や、一面植樹が広がる防波堤沿いも歩きました。青空に風を受けて回る風車。太陽を反射する一面のソーラーパネル。白煙をもくもくあがる火力発電所。今回も、いろいろな思いを巡らせながらの歩みとなりました。風は穏やかで、人数も過去一番に近く、大勢の力強い足どりでした。



相馬市に入り、沿道で手を合わせてくださる方も多くおられました。蒼龍寺様の慰霊碑では寒い中たくさんの方々が参列され、役員の方のお宅で温かいもてなしをいただきました。松川浦の海沿いを歩く予定でしたが、昨年三月の地震の補修作業中でした。OBの天野淳英師、瀧澤勝俊師（元会長）、秋田県曹青より菅原芳徳師、宮城県曹青より千田祥幹師、牧野隆信師が随喜下さり、お力を頂きました。



第十一回 二月七日（火）



天 氣／晴れ
 氣 温／九度
 金沢慰霊碑／八沢地区慰霊碑
 歩 数／一万八百三十一歩
 集合場所／千相院様
 担 当／支部／県北（十五名）
 支援支部／相双（五名）

相馬市に入り、沿道で手を合わせてくださる方も多くおられました。蒼龍寺様の慰霊碑では寒い中たくさんの方々が参列され、役員の方のお宅で温かいもてなしをいただきました。松川浦の海沿いを歩く予定でしたが、昨年三月の地震の補修作業中でした。OBの天野淳英師、瀧澤勝俊師（元会長）、秋田県曹青より菅原芳徳師、宮城県曹青より千田祥幹師、牧野隆信師が随喜下さり、お力を頂きました。



第十二回 二月二十日（月）



天 氣／曇り
 氣 温／三度
 磯部地区慰霊碑
 歩 数／一万七千三十九歩
 集合場所／蒼龍寺様
 担 当／周年委員会（十七名）
 支援支部／相双（五名）

相馬市に入り、沿道で手を合わせてくださる方も多くおられました。蒼龍寺様の慰霊碑では寒い中たくさんの方々が参列され、役員の方のお宅で温かいもてなしをいただきました。松川浦の海沿いを歩く予定でしたが、昨年三月の地震の補修作業中でした。OBの天野淳英師、瀧澤勝俊師（元会長）、秋田県曹青より菅原芳徳師、宮城県曹青より千田祥幹師、牧野隆信師が随喜下さり、お力を頂きました。



天 氣／曇り時々晴れ
 氣 温／十六度
 原釜慰霊碑
 〓新地釣師浜防災緑地公園
 七キロ五百メートル
 歩 数／一万二千八百八十九歩
 集合場所／ほこだて仏光堂
 担当支部／全支部（三十七名）
 支援支部／相双（二名）



最終回となった今回は、全六支部から四十名が集結し、県内各地から想いを寄せ合つての行脚となりました。四十人となると行脚の列は百メートルを超え、海に向かえば「祈りの防波堤」に。



いわき市勿来から十三回に分けての行脚は、ついに浜通り最北の新地町に到達。
 歩いた距離は百二十キロに及びます。
 被災地では、様々な思い、複雑な思いを抱えながら重ねた十二年があります。
 僧侶として、そこに少しでも寄り添い受け止められたなら。そんな思いで始まった「絆の道」は無事に完歩となりました。しかしながら、今回の行脚で頂いた皆さんの気づきを胸に、これからも被災地に思いを寄せ、共に歩み続けたいと思います。

合掌



相双地区東日本大震災慰霊碑供養



東日本大震災十三回忌慰霊法要に先立ち、相双地区東日本大震災慰霊碑供養を行いました。ここ二年間は新型コロナウイルス感染症拡大のため、相双支部の会員中心での実施となっておりましたが、本年は三年ぶりとなる県内全六支部からの参加に加え、全曹青からも二名のご参集をいただき、総勢三十二名での行脚となりました。

南萱浜慰霊碑では諸事情により、野田精顕老師（新祥寺住職）に代わり佐藤泰典会長（西光寺住職）、下渋谷孝子（陽山寺住職）に導師をお務めいただきました。時間の都合により当初予定していた原釜慰霊碑は一部参加者のみでの訪問となつてしまいましたが、こちらも毎年この日に慰霊碑供養を行っておられる天野淳英老師（慶徳寺住職）ご一行と偶然にも居合わせ、ご厚意により共に供養をさせていただきました。

天候に恵まれたこともあり、各地で多くの方々が参列、焼香をしてくださいました。この十二年間の様々な想いを、亡くなられた方へ届けていただけたことと思います。

（県庶務 山田康裕 記）



東日本大震災十三回忌慰霊法要



三月十一日、相馬市のほこだて仏光堂一休館相馬に於いて東日本大震災十三回忌慰霊法要が執り行われました。当会では相双地区で行う年忌法要は初めてとなりました。県内から会員と地元OB会員の方々、県外からも世界仏教徒青年連盟、全国曹洞宗青年会、青森県曹洞宗青年会より御随喜いただき、導師は会長の佐藤泰典師が勤め総勢四十二名での法要となりました。十四時四十六分、鐘

の音に合わせ黙祷を捧げ、法要の中では詠讃師により震災精霊供養御和讃が奉詠され、多くの方々に参加いただき、ご焼香賜りました。

また、来場が叶わなかった方々にも一緒にご供養をしていただきたいとの想いからYouTubeによりライブ中継を発信いたしました。東日本大震災より十二年が経ち、現在、東日本大震災により亡くなられた方々や未だ行方が分からない方々、震災関連死の方も含めると二万二千二百十二人に上ります。その御霊をご供養させていただくとともに、この震災を風化させないためにも私たちは被災された方々に寄り添い、日々活動をしていきたいと思っています。

（県事務局長 井上順平 記）



曹洞宗福島県青年会主催 東日本大震災十三回忌慰霊法要 令和5年3月11日(土)



SNS・ホームページ・ロゴマークについて

今年度、当会はFacebook、YouTube、ロゴ、ホームページの作成に取り組みました。「精進」を通じて県内のご寺院方には活動報告をしておりましたが、SNSによる発信を通して、寺院の枠を超えた若い層に情報をリーチすることで、会の活動が社会とつながりを持たせたいという意図がありました。

今年度は、東日本大震災13回忌にむけて「絆の道」慰霊行脚を開始しました。その開始に合わせて、Facebookページの本格運用をはじめました。同時にYouTubeチャンネルを開設し、行脚の様子をショートムービーとしてまとめ、YouTube上に公開いたしました。2月にはインスタグラムも開設しFacebookページとの連携をはじめました。Facebookページの記事は主に周年委員長が担当し、YouTubeチャンネルの管理は執行部が行いました。その後も定期的に記事を上げ、3月末現在で約35回の記事の投稿し、東日本大震災13回忌のライブ中継も含め4本の動画を公開いたしました。少しずつではありますが、今までは情報の届くことの無かった方々に当会の活動を知っていただき、我々の活動と社会との接点を増やせている、という実感を得ることができました。さらに現在

ホームページの作成も進めており、上記のSNS発信のプラットフォームとして展開していきます。また精進のアーカイブ閲覧、禅の暦の申し込みも可能にし、会員専用ページにて総会資料などの情報共有を行っていく予定であります。この記事を読まれている頃にはホームページも運用が始まっておりますので、是非ご覧になってください。今年の10月には当会が主体となって禅フェスティバルを開催します。その告知、宣伝等にもSNSのツールを積極的に活用し、各ツールのさらなる活発化を目指します。

次年度においては、曹福青としてのロゴマークの制作を行います。わたしたち曹洞宗福島県青年会の特色とは何なのか、また目指すところはどこなのかを明らかにしながら、長く親しまれるロゴマークを制作し、活用していきます。

一過性のもので終わることなく、今後もこうした情報発信を続けていくためには、当会が「発信する価値のある活動」を継続的に行っていく必要があります。定期的に情報を発信し続けられるよう、様々な事業、活動を展開していきたいと思ひます。

(県事務局長 井上順平 記)



令和4年度 ご協賛芳名録

第5教区 136番 廣修寺 様
第7教区 149番 関川寺 様

退会者一覧

氏名	寺院名	支部名
白鳥 俊隆 師	東林寺	県中
須藤 智顕 師	宝積寺	会津
加倉 良二 師	東光寺	いわき

ホームページは
こちらから→



会津支部 自由研修会



令和五年三月三日、会津若松市恵倫寺様を会場に「お寺とデジタル」というテーマで会津支部自由研修会を開催しました。講師に西会津町デジタル最高責任者の藤井靖史先生をお迎えし、デジタルトランスフォーメーション(DX)についての講義を約一時間、その後ワークショップを約二時間行いました。

講義ではデジタルトランスフォーメーション(DX)とはユーザーの視点にたち働き方改革を行うこと。デジタルは道具であり、その道具を使い達成すべき目的や課題を解決することが重要ということでした。

ワークショップでは、四つのグループに分かれお寺の課題を紙に書き、グループ内でアイデアを出し、結果を整理して発表するという「ブレインストーミング」という手法で行われ、いろいろな課題とアイデアが出てきて大変充実したワークショップとなりました。

今後、この自由研修会を継続していきたいと思ひておりますのでよろしくお願いいたします。

(会津支部 伊藤法道 記)



会津支部 禅と法話の会

令和四年十二月十五日、會津稽古堂で「禅と法話の会」を開催しました。初めての試みかつ大雪にも関わらず七十人を超える来場があり、熱心に耳を傾けていただきました。



①イス坐禅②法話リレー③御詠歌奉詠という三段構成で、仏教や禅の世界をたつぷりと味わっていただく内容とし、特に法話リレーは四摂法をテーマに、導入、布施、愛語、利行、同事、帰結と六人で繋いでいきました。

コロナ禍の今だからこそ、心安らぐ仏教の教えを届け、少しでもほっとできる時間になればという思いで企画したこの会。法話の内容も分かりやすく工夫し、等身大の言葉を届けようと努めました。参加者の評価も高く、こちらが恐縮するほどの感想をいただきました。この六人は、仏教を一から学ぼうとの呼びかけに賛同した集まりです。コロナにめげず月一の勉強会を二年重ね、ようやく社会に発信できました。常時仲間を募集しています！興味あればお気軽にお声がけください。



(会津支部 楠 恭信 記)

支部だより

県北

十二月一日に歳末助け合い托鉢を行いました。
例年は福島駅前に立つて行っていました。今年からの試みとして三班に分け行脚するスタイルでの托鉢を行いました。

托鉢終了後には東安寺様に於いて参加者にて成道会を修行致しました。

三月七日に福島市成願寺様境内の誓願地蔵尊に就いて東日本大震災十三回忌法要を修行致しました。この地蔵尊は平成二十七年に県北青年会創立四十周年記念事業にて建立したものです。

参加者皆思い思いに十二年の歳月を振り返り、追悼の誠を捧げました。



(県北支部 清水清孝 記)

県中

令和四年十月十九日、仏舍利塔無縁塔供養(郡山市仏教会)が東山霊園にて行われました。十月



二十五日、天沢寺様にて晋山結制、十月二十九日、廣度寺様にて晋山式が厳修され、随喜させて頂きました。
十二月九日、歳末助け合い托鉢(郡山市仏教会)が行われました。新型コロナウイルスの影響により、三年ぶりの開催となりました。マスク着用にて、例年通り郡山駅前方面とうすい百貨店前の二手に分かれて行いました。当日は天候も良く、貴重な御浄財をお納め頂いた方々には誠に感謝の意を申し上げます。
十二月十四日、南相馬市にて絆の道慰霊行脚をさせて頂きました。郡山に戻り、駅前にて少人数、忘年会を行い、懇親を深めました。

令和五年三月十六日、長泉寺様(郡山市大槻町)にて本堂落慶法要が厳修され、随喜寺院と檀信徒合わせて二百名が参列され、盛大に執り行われました。建設計画は平成二十九年より始まり、壮観な本堂が完成致しました。



(県中支部 木町元風 記)

県南

去る十二月八日、須賀川市金剛院様を会場に臘八接心会並びに成道会を修行いたしました。当日は歳

いわき

全体での会議も始まり、会員皆さまと共に、会議を重ねながら、良いものが作れるよう精進致します。
(相双支部 斎藤紹俊 記)

第十五教区及び第二十二教区の会員で構成されている私どもいわき支部は、昨年九月から浜通りで開催されている「東日本大震災十三回忌奉賛事業 絆の道慰霊行脚」に参加しました。
十二月二十五日には毎年恒例の歳末助け合い托鉢をいわき支部及び、浄土宗と真言宗智山派の各青年会で形成されるいわき仏教青年会として、市内のショッピングセンター・エブリアで開催、買い物にきた市民から多くの浄財をお預かりし、全額をいわき市社会福祉協議会に納めることができました。



また二月二十五日には会員の龍雲寺禪ホールにて「パソコンまわり音楽Live」の主催で、ギタリストの富澤タク氏とシンガーソングライターのTOKI氏による祈りライブが開催。当日は会場に子どもから高齢者まで約五十人の観客が参加、暖かい雰囲気になりました。



このほか三月十一日には会員各寺で十三回忌法要が執り行われ、亡くなられた方への供養と、行方不明



末助け合い托鉢も実地いたしました。天候にも恵まれ、道行く方々より浄財をお寄せ頂きました。お預かりいたしました浄財はすべて須賀川市社会福祉協議会様へ全額寄付させて頂きました。

また、今年度は「令和五年版 禅の暦」の制作を担当させて頂きました。おかげさまで、おかげさまで、おかげさまで、好評賜り、全国各地の御寺院様にご活用頂いております。先輩方より受け継がれた歴史ある頒布物の制作を無事に終えられたことに安堵しております。



感染症の流行が始まり早三年が経とうとしています。三月半ばからはマスクの着用の考え方が見直され、少しずつコロナ禍前の生活に戻ろうとしています。一変した生活を以前のように戻すのは中々難しいと思いますが、今私たちに出来ることを考えながら今後も取り組んで参りたいと考えております。

(県南支部 長谷川俊隆 記)

相双

二月十日、第二十三期梅花流師範養成所を終えた島村哲哉師が、閉所式にて代表謝辞を述べられました。哲哉師より一言いただきました。

第二十三期梅花流師範養成所を終えて

島村 哲哉

会津



令和四年十二月四日に会津若松市内において会津支部の歳末助け合い托鉢が行われました。今年も新型コロナウイルスの影響からコースを短縮し、マスク等の感染対策をしながらの開催となりました。OB会員の方々の参加もあり青年会員との深い繋がりを再認識しました。会津支部長 伊藤法道師を托鉢導師に長福寺様を出発、天候には恵まれましたが時折冬の訪れを感じる強風を感じながらの托鉢となりました。会津若松市の主要通りを行脚すると鈴の音に街の人々が両手を合わせる姿があり自然と人々の安寧や幸せを願う気持ちが入り込んできました。



また、令和五年三月三日には「お寺とデジタル」というテーマで会津若松市恵倫寺様を会場に会津支部自由研修会が行われました。他支部の方にも参加していただき有意義な研修となりました。結びに会津の僧侶一丸となりこれからも精進していききたいと思います。

(会津支部 田澤孝学 記)



コロナ禍での四年間、大変お疲れ様でした。新規会員紹介・・・南相馬市岩屋寺徒弟、星見元耀師が昨年十月に本山總持寺での安居を終え、当青年会員として入会されました。今後の活躍が期待されます。元耀師コメント「本山修行を厳修して参りました。僧侶としてのスタートをきり、これからも精進します。今度ともご指導のほど宜しくお願い致します。」

当支部会員にて、引き続き令和六年版禅の暦作成の為、打ち合わせを重ねております。